

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 熊西 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

(2) 本校の学力調査結果の分析

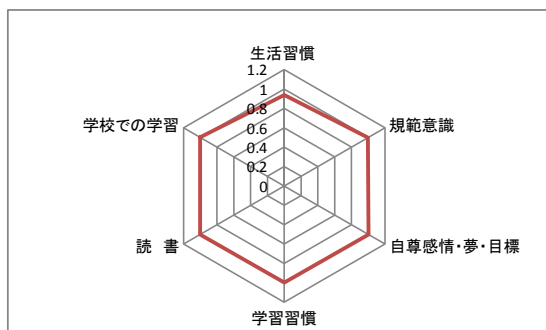
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均をわずかに下回っていたが、「読むこと」は上回っていた。全校一斉読書等の取組の効果が表れている。 ・「書く力」を問う問題にまだ課題はあるが、書くことの習慣化により改善されてきている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する問題は、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く問題は、無回答が多かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均をわずかに下回っていたが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「記述式」は上回っていた。 ・説明的な文章における構成や要約に課題があるので、文種に応じた指導が必要である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的に応じて必要な情報を読み取ったり、課題に応じた情報の収集方法を考えたりする問題は、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	文章の構成をとらえたり、目的に応じて要約したりする問題は、正答率が低かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均をわずかに下回っていたが、「関数」は上回っていた。 ・数量や図形についての知識・理解は高くなってきているので、応用する力を付ける必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	資料活用の問題や、関数の問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	合同条件や命題の逆など、図形に関する問題は、正答率が低かった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均をわずかに下回っていたが、「数と式」「資料の活用」は上回っていた。 ・数量の変化、図形の証明など、筋道を立てて考える力を付ける必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	資料から必要な情報を読み取る問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	図形に関して、筋道を立てて考え、証明する問題は、無回答率が高かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・昨年度まで、「自分には、よいところがあると思う」生徒が少なく、全国平均を大きく下回っていたが、今年度は大幅に増え、全国平均を上回った。この自己肯定感を具体的な目標や夢に結びつけていく必要がある。 ・毎日同じくらいの時刻に寝ることができていない生徒が、全国平均に比べて多い。メディア接触時間は全国平均に比べてやや少ないものの、生活習慣の確立に向けてさらに取組を継続していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・授業のめあての提示はできているので、2学期以降は、毎時間、授業の流れを初めに示し、生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにする。
・毎時間、生徒が「学習のまとめ」を自分の言葉で書いたり、言ったりできるように、徹底していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・熊中フットなどを活用し、「1学年 1時間40分」「2学年 1時間50分」「3学年 2時間」の家庭学習の量と質を充実させていく。
・「携帯・スマホ電源10時OFF」の取組への協力を通信等で保護者にもお願いし、生活習慣を確立させ